

東京農工大学

経済産業省・文部科学省共催

「アジア人財資金構想 高度専門留学生育成事業」による

先端ものづくり IT エンジニア育成プログラム

平成 22 年度 募集要項

Education Program of  
IT Engineers for Advanced Manufacturing

co-sponsored by METI\* and MEXT\*\* as

“Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan”

Application Guide for Enrollment in October 2010

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND TECHNOLOGY (TUAT)

Tokyo, Japan

<http://www.tuat.ac.jp/~asiaprogram/>

\* METI: Ministry of Economy, Trade and Industry of Japan

\*\* MEXT: Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan

ー 東京農工大学先端ものづくり IT エンジニア育成プログラムについてー

A Profile of the TUAT Education Program  
of IT Engineers for Advanced Manufacturing

**東**

京農工大学アジア人財資金構想（「先端ものづくり IT エンジニア育成プログラム」）においては、プログラム生は渡日後 6 ヶ月間にわたる日本語予備教育研修を受けた後、大学院工学府博士前期課程に入学し、工学修士号取得に必要な科目履修と研究を行います。また、学生は同時にアジア・エンジニアリングスクールに所属し、アジア人財資金構想独自の教育を受け、博士前期課程修了後に日本の企業等での活躍を目指します。

本募集要項は、本学アジア人財資金構想プログラム対象の文部科学省国費留学生候補者の選抜について主に述べたもので、採用者は後日、本学大学院工学府博士前期課程入学試験を受験し、合格することがプログラム生継続採用の条件となりますので、その点に留意してください。

**S**

tudents participating in the “Education Program of IT Engineers for Advanced Manufacturing” at Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT) under the framework of “Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan” are to enroll first in the Japanese language training course for six months and then in the Graduate School of Engineering at TUAT for two years, undertake coursework and conduct research activities leading towards a master’s degree in engineering. They will enroll in TUAT’s Asia Engineering School at the same time to follow courses specifically designed for participants in the “Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan” and work towards a career in Japanese corporations.

This application guide gives details on the application/screening process of applicants for the above-mentioned program to be selected and nominated by TUAT as MEXT Japanese government scholarship students. It must be noted that in order to get officially admitted to the Graduate School of Engineering after completion of the intensive Japanese language training, participants are required to sit for and pass the entrance examination for the master’s course at the Graduate School of Engineering.

平成 22 (2010) 年度

アジア人財資金構想 高度専門留学生育成事業 (経済産業省・文部科学省共催) による  
東京農工大学「先端ものづくり IT エンジニア育成プログラム」

東京農工大学では、平成 20 (2008) 年度より、「アジア人財資金構想 高度専門留学生育成事業」の一環として、アジアから優秀な学生を招き、「先端ものづくり IT」の分野において、日本を基盤としてアジア、そして世界を舞台に活躍するエンジニアを養成する「先端ものづくり IT エンジニア育成プログラム」を実施しています。平成 22 (2010) 年度に開講される 6 ヶ月間の日本語予備教育研修期間を経て、平成 23 (2011) 年度より本学大学院工学府博士前期課程 (修士) において、同プログラム課程で学ぶ学生を下記により募集します。

## 1. プログラム概要

21 世紀社会における情報・物流革命や国際社会のボーダーレス化を背景として、全世界に物理的な距離を超えた新しい経済圏が構築されようとしています。人々の暮らしが急激に変化し続ける今、産業や社会の基盤を支える情報技術に加え、アジア経済成長・発展の原点である「ものづくり」の重要性があらためて認識されています。

家電、自動車、携帯端末、システム構築などを中心とする「先端ものづくり IT」は、日本が国際競争力を持ち、今後さらなるアジア展開が予想される伝統的「ものづくり」に、時代の先端を行く情報科学技術を高度に融合させた分野です。東京農工大学では、早くからこの分野に注目し、技術を担うアジア圏の人材育成が急務であると考え、平成 20 (2008) 年度より学内にアジア・エンジニアリングスクールを設置し、「先端ものづくり IT エンジニア育成プログラム」を開講しました。

本プログラムは、アジアの相互理解と経済連携の促進に向け、本国経済産業省と文部科学省が共催する「アジア人財資金構想」の一環として実施するもので、優秀なアジア人学生に対する日本への留学、日系企業での活躍の機会を拡大し、産業界と大学が一体となって一貫した育成プログラムを提供し、将来、アジアと日本の架け橋となるグローバルな人材の育成を目指しています。

具体的には、アジア各国より、能力と意欲の高い外国人大学院留学生を受け入れ、産業界で十分に能力を発揮できるよう、先端ものづくり IT 分野での活躍に必要な専門能力に加えて、日本語能力・日本ビジネス文化対応力を養成し、日本企業への就職機会を支援すること、そして、本プログラム修了生が日本企業で一層の研鑽を積んだ後、アジアさらには世界を舞台に活躍し、国際経済とグローバル人材の拡大再生産に寄与することを目指すものです。

東京農工大学では、今日まで、アジア圏を中心に多くの外国人留学生を受け入れてきており、卒業生たちは国内外を舞台に活躍しています。また、情報工学、機械システム工学、電気電子工学、生命工学等の各分野で豊富な教育研究実績を有するのみならず、産学官連携においても、我が国でトップクラスの実績 (たとえば、教員一人あたりの共同研究件数・金額ともに国内第一位) を有しています。長年にわたる日本語教育の実績や国際交流の実績に加えて、産業界における長期インターン教育も定着してきており、皆さんが安心して学習・研究に励むことのできる環境が整えられています。

なお、本プログラム参加者は、文部科学省国費外国人留学生として大学から推薦され、採用された場合には、当該奨学金を受給することができます。

## 2. 応募資格および条件

### 2.1 専攻分野

東京農工大学大学院工学府における IT ならびに IT の応用に関する工学分野。  
中心専攻である「情報工学専攻」、その応用や活用に関わる「機械システム工学専攻」、「電気電子工学専攻」、「生命工学専攻」、「応用化学専攻」の中から、希望する専攻を選択してください。

### 2.2 募集人員

8名（予定）

### 2.3 指導教員

本プログラム Web サイト<URL:<http://www.tuat.ac.jp/~asiaprogram/>>上の研究者情報検索システムを使って希望する指導教員（第1希望と第2希望）を検索し、応募書類上に明記してください。応募に先立って、希望指導教員と直接連絡を取り合う必要はありません。第一次選考（書類審査）を通過した者は、各自希望する指導教員に連絡し、受入れに関する相談を行わなければなりません。指導教員との連絡方法については、第一次選考通過者に対し、別途、通知します。

### 2.4 学歴等

アジア諸国の4年制大学を卒業した者、または平成22（2010）年9月30日までに卒業見込みの者で、学業成績が特に優秀な者を対象とします。

日本国政府が定める学業成績評価係数（下記計算式参照）が、直近の過去2年間で2.0以上、かつ、直近の過去1年間で2.5以上であることが必要です。下記の表により、「評価ポイント」を算出の上、所定の計算式に当てはめて計算してください。

評価ポイントの算出表

区分	成績評価				
		優	良	可	不可
4段階評価		A	B	C	F
4段階評価		100～80点	79～70点	69～60点	59点～
5段階評価	S	A	B	C	F
5段階評価	A	B	C	D	F
5段階評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点～
評価ポイント	3	3	2	1	0

○計算式：

$$\frac{(\text{「ポイント3の単位数」} \times 3) + (\text{「ポイント2の単位数」} \times 2) + (\text{「ポイント1の単位数」} \times 1) + (\text{「ポイント0の単位数」} \times 0)}{\text{総登録単位数} (\text{「ポイント3の単位数」} + \text{「ポイント2の単位数」} + \text{「ポイント1の単位数」} + \text{「ポイント0の単位数」})}$$

\* ポイント＝「評価ポイント」を指します。

## 2.5 IT スキル試験

応募者は渡日時まで、現地で行われる情報処理技術者試験[\*1]を受験することが望ましい。

[\*1] 情報処理技術者試験：

現在、(独)情報処理推進機構 (IPA・URL:<http://www.ipa.go.jp/>) により、アジア諸国および地域との間で協定が結ばれ、日本で行われる IT 試験との間で情報処理技術者スキル標準ベースによる相互認証の取組みが推進されています。

## 2.6 日本語能力等

応募時に日本語能力試験 3 級[\*1]以上、渡日時に同 2 級[\*2]以上の日本語運用能力を有していることが望ましい。

[\*1] 日本語能力試験 3 級：

基本的な文法・漢字 (300 字程度) ・語彙 (1,500 語程度) を習得し、日常生活に役立つ会話ができ、簡単な文章が読み書きできる能力 (日本語を 300 時間程度学習し、初級日本語コースを修了したレベル)。

[\*2] 日本語能力試験 2 級：

やや高度の文法・漢字 (1,000 字程度) ・語彙 (6,000 語程度) を習得し、一般的なことらについて、会話ができ、読み書きできる能力 (日本語を 600 時間程度学習し、中級日本語コースを修了したレベル) ([URL:http://www.jees.or.jp/jlpt/](http://www.jees.or.jp/jlpt/)>参照)

## 2.7 国籍・年齢

平成21(2009)年10月1日現在、日本国と国交のある国の国籍を有し、新たに海外から留学する者で、昭和50(1975)年4月2日以降に出生した者としてします。申請時に日本国籍を有する者は、募集の対象とはなりません。

## 2.8 健康

心身ともに健全な者。

## 2.9 渡日時期

2010年10月1日～10月7日の間で大学の指定する期日に来日してください。

## 2.10 その他の注意事項

- ・現役軍人または軍属の資格のまま、出願することはできません。
- ・指定の期日までに渡日出来ない者は、採用を取り消します。
- ・過去に国費外国人留学生であった者については、帰国後3年以上の教育研究の経験がある場合に限り、出願することができます。
- ・他の奨学金を受給する者は、国費外国人留学生としては採用されません。
- ・日本政府奨学金留学生大使館推薦及び日本の他大学を含む奨学金に重複申請している者は対象になりません。
- ・学位取得見込みで応募した者で、2010年9月までに取得できない者は、採用を取り消します。

### 3. 選考日程

日 程	内 容
2009年10月1日(木)～11月19日(木)	応募受付（郵送による）
2009年12月10日(木)以降	第一次選考（書類審査）結果発表・通知
2009年12月中旬～2010年1月上旬	希望する指導教員との受入れに関する相談 *連絡方法は別途、第一次選考通過者に通知します。
2010年1月上旬～中旬 （調整の上、決定）	第二次選考（面接審査）実施 *会場等の詳細は、第一次選考通過者に通知します。
2010年1月下旬	第二次選考（面接審査）結果発表・通知
2010年7月初旬（予定）	本学を通じて国費外国人留学生として文部科学省に推薦
2010年7月～9月	現地事前日本語教育実施
2010年7月下旬（予定）	文部科学省書類審査 結果発表・通知
2010年10月	渡日、アジア・エンジニアリングスクール入学 日本語予備教育研修開始
2011年1月（予定）	本学博士前期課程入学試験 *日本語予備教育研修生は、全員必ず受験のこと。
2011年2月（予定）	本学博士前期課程入学試験 結果発表
2011年3月	日本語予備教育研修修了
2011年4月	工学府博士前期課程入学、2011年度プログラム開始

なお、募集に先立ち、2009年秋（8月～11月）にアジア各地において プログラム募集説明会 を行います。説明会の詳細については、Webサイト<URL:<http://www.tuat.ac.jp/~asiaprogram/>>上で確認してください。

#### 3.1 第一次選考（書類審査）

##### 3.1.1 応募受付期間

2009年10月1日(木)～2009年11月19日(木) 17:00 必着（すべて日本時間・締切日時厳守）

##### 3.1.2 提出書類

1. 平成22（2010）年度「先端ものづくり IT エンジニア育成プログラム」入学申請書 \* .正本1部
2. 専攻分野および研究計画 \* ..... 正本1部
3. 所属大学（学部または大学院）の在学証明書 または  
最終出身大学（学部・大学院）の卒業（見込）証明書、学位記等証明書のいずれか..... 正本1部
4. 所属大学における最新2年間の成績証明書  
（就職している者は最終出身大学における最新2年間の証明書） ..... 正本1部
5. 写真（最近6か月以内に撮影したもので4.5cm×3.5cm、上半身、正面、脱帽、

- 裏面に国籍および氏名を記入し、申請書所定の欄に添付したもの) ..... 1葉
6. 日本語運用能力を客観的に示す資料  
 (日本語能力試験、日本語能力に関する証明書等) ..... 正本1部
7. 応募書類チェックシート \* ..... 1部

所定様式 \* (上記 1、2、7) は、すべて Web サイト <URL: <http://www.tuat.ac.jp/~asiaprogram/>> 上からダウンロードできます。

- (注 1) これらの書類は、すべて日本語または英語により、できるだけタイプを用いて、A 4 版の用紙に統一して作成してください。(その他の言語により作成する場合は、日本語もしくは英語による訳文を添付してください。手書きの場合は特に、読みにくい文字がないように注意して正確に記入してください。)
- (注 2) 上記申請書がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、附属書類が完全に揃っていない場合、または提出期限が過ぎた場合は、受理しません。
- (注 3) 上記書類のうち、1、2、7の書類については、本学所定の様式を使用してください。その他の書類はA 4 版の用紙に統一してください。
- (注 4) 提出書類は原則として返却しません。
- (注 5) 提出書類およびその様式は変更することがあります。その場合はWebサイト上で告知します。

### 3.1.3 書類送付先

次の住所宛てに、EMS 等、発送記録の残る国際郵便で送付すること。郵送以外は受け付けません。

東京農工大学 小金井キャンパス 国際センター アジア人財プログラム担当

住 所： 東京都小金井市中町 2-24-16 〒184-8588

電 話： +81-42-388-7772

### 3.1.4 第一次選考結果発表

第一次選考（書類審査）の結果は、2009年12月10日(木)以降、応募者本人に直接通知します。

## 3.2 第二次選考（面接審査）

第一次書類選考の後、第二次選考（原則として現地面接）を行います。日時・会場等の詳細については、第一次選考通過者に個別に通知します。

日 程	国 名	都 市 名
2010年1月上旬～中旬の間で個別に調整	中国	上海・大連
	ベトナム	ハノイ
	タイ	バンコク
	上記以外の国	上記以外の都市

## 3.3 大学院入学試験

第二次選考を通過すると、2010年10月より「日本語予備教育研修生」として本学への入学が許可されます。日本語予備教育研修実施期間は6ヶ月間ですが、学生は全員、2011年1月に行われる本学大学院工学府博士前期課程の入学試験を受け、合格しなければなりません。

## 4. プログラムの内容

### 4.1 プログラムの特長

東京農工大学では、プログラムの開始前に、入学予定者に対して現地事前日本語教育を行います。渡日前に集中的に日本語を学び、日本語能力を伸ばすことで、日本での学習・研究に対する不安を解消することを目的としています。さらに、入学後の6ヶ月間に日本語予備教育研修を実施し、翌年4月からの大学院正規課程入学に向けて準備します。

アジア・エンジニアリングスクールには、既存の本学大学院工学府設置科目に加えて、本学と産業界のコンソーシアムメンバー、プロジェクト参加企業が新規に共同開発した教材を使用する特別講座が開講されます。専門科目に加え、多様な日本語教育プログラムも用意されています。プログラム修了時には、少なくとも日本語能力試験1級程度以上の日本語能力を習得することを目標としています。

さらに、プログラム期間中には、全員が長期インターンシップに参加し、日本の企業文化を実地に体験することができます。日本国内企業が新卒者をより多く採用する季節である春に、計2.5年間のプログラムを修了します。

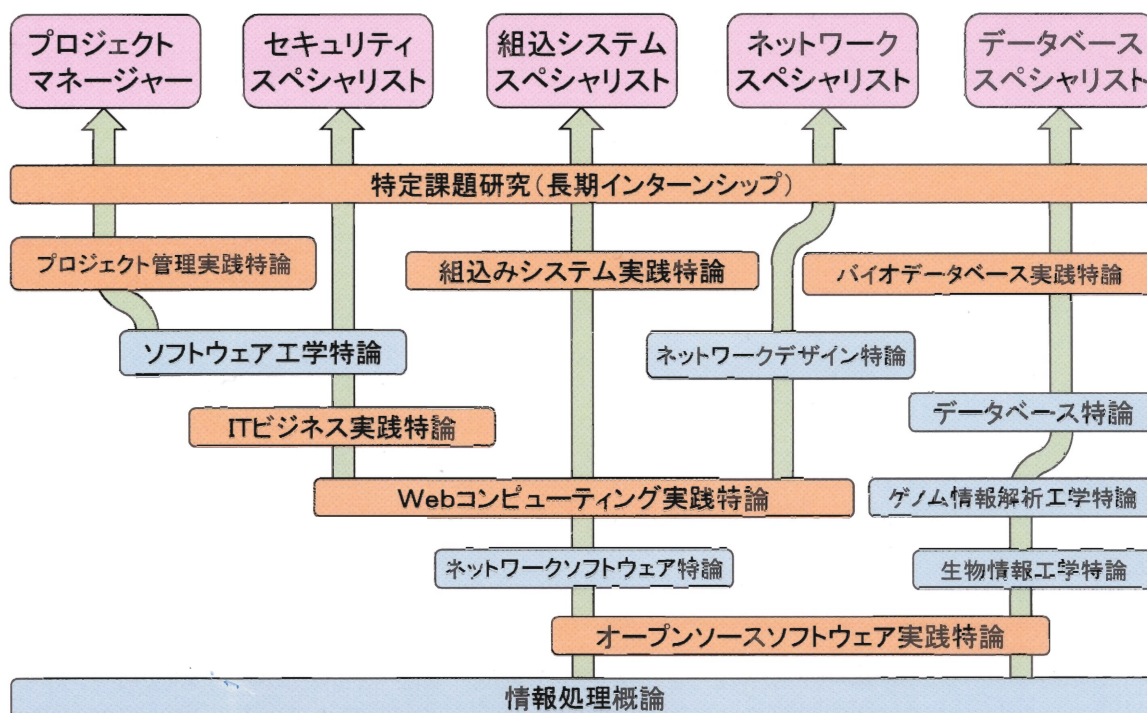
### 4.2 カリキュラム

専門教育プログラムでは、(独)情報処理推進機構(IPA)によるソフトウェア開発のスキルスタンダード(ITSS)および組込みソフトウェア開発のスキルスタンダード(ETSS)に準拠したレベル2~4相当の教材を使用します。入学時と修了時に情報処理技術者試験の受験を課し、日本語によるIT能力を測ります。

アジア・エンジニアリングスクール主要開講科目は、次のとおりです。

○平成23(2011)年度 既存設置開講科目	
「情報処理概論」	「ネットワークデザイン特論」
「生物情報工学特論」	「データベース特論」
「ゲノム情報解析工学特論」	「ソフトウェア工学特論」
「ネットワークソフトウェア特論」	「特定課題研究」
○平成23(2011)年度以降 特別講座開講科目	
「プロジェクト管理実践特論」	「組込みシステム実践特論」
「Webコンピューティング実践特論」	「バイオデータベース実践特論」
「オープンソースソフトウェア実践特論」	「ITビジネス実践特論」

## アジア・エンジニアリングスクール主要科目コースツリー



### 4.3 日本語プログラム

#### 4.3.1 現地事前日本語教育

第二次選考通過者に対して、来日直前に現地にて事前日本語教育を行います。候補者は本プログラムに応募する時点で、基礎的な日本語能力を有していることが必要ですが、来日前に日本での大学院生活に必要な十分な日本語運用能力の習得を目指して集中的な指導を行います。具体的な実施方法・実施時期等については、第二次選考通過者に別途通知します。

#### 4.3.2 日本での日本語予備教育研修

2010年10月から2011年3月までの6ヶ月間は、日本語予備教育研修生として本学の日本語特別コースに参加します。大学院における教育・研究活動で必要となる日本語や日本の習慣を学び、2011年4月からの大学院入学に備えて日本語能力のさらなる向上を目指します。

#### 4.3.3 ビジネス日本語研修

入学後は、プログラム修了後に社会人として日本企業で働く際に必須となるビジネス日本語を学び、留学生が言葉のハンディを乗り越えて日本企業に就職するために、身につけておかなければならないスキルを習得します。ロールプレイなども交えながら、実践的なビジネス日本語を集中的に学習し、就職、さらには就職後に備えます。

#### 4.3.4 日本ビジネス研修

入社後に即戦力として活躍できるよう、ビジネスに必要な言葉だけでなく、日本の企業文化やビジネスマナーを学び、企業人適応力を養います。就職活動に関するアドバイスを受けることもできます。

## 5. 奨学金等

### 5.1 奨学金

本プログラム参加生は、国費外国人留学生として、本学から文部科学省に推薦されます。

#### 5.1.1 奨学金支給期間

平成22（2010）年10月から平成25（2013）年3月までの2.5年間。留年等による延長は認められません。

#### 5.1.2 奨学金支給額

初年度前半（2010年10月～2011年3月）は月額 155,000円、初年度後半（2011年4月～9月）以降は、月額 157,000円（予定：変更される場合あり）を支給します。ただし、休学または長期に欠席した場合は、原則として奨学金は支給されません。

### 5.2 旅費

渡日旅費が支給されます。帰国旅費の支給はありません。

### 5.3 授業料等

文部科学省国費外国人留学生として採用された場合には、入学料および授業料は免除となります。

### 5.4 宿舍等

入学後の1年間は、本学小金井キャンパス内の学生寮に滞在することができます。入学後の学生生活の詳細については、本学 Web サイトを参照してください。

## 6. その他の注意事項

- ・本プログラム修了直後に、博士後期課程に進学することはできません。
- ・日本の他大学の国費留学生との併願・重複申請は認められません。

## 7. 問合せ先

東京農工大学 小金井キャンパス 国際センター アジア人財プログラム担当

住 所 : 東京都小金井市中町 2-24-16 〒184-8588

電 話 : +81-42-388-7772（月曜～金曜 09:00～17:00 / 日本時間）

FAX : +81-42-388-7775

E-mail : asiaprg1@cc.tuat.ac.jp

URL : <http://www.tuat.ac.jp/~asiaprog/>

# TUAT Education Program of IT Engineers for Advanced Manufacturing 2010

co-sponsored by METI and MEXT as  
“Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan”

In the 2008 academic year, Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT) has launched the “Education Program of IT Engineers for Advanced Manufacturing,” a two-year engineering program in the master’s course at the Graduate School of Engineering. As part of the “Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan” supported by the government, this program is designed for motivated and excellent students from Asia who are interested in studying at TUAT to become professional engineers specialized in the field of “information technology for advanced manufacturing.” Upon completion of the program, students are expected to join Japanese corporations to further promote their career at first in Japan, then in Asia and throughout the world. TUAT invites application for admission to the program for the 2010 academic year (a six-month Japanese language training followed by a two-year master’s course) as follows.

## 1. Program Overview

As a consequence of changes in society, particularly with regard to the globalization of the world communities and the technological revolution in information and physical distribution, the 21<sup>st</sup> Century sees the emergence of a new economic sphere independent of geographical distance. At a time when life is changing so rapidly, we once again recognize the importance of manufacturing, which has long been a driving force for economic growth and development of Asia, as well as that of the leading-edge information technology which forms the infrastructure of contemporary industries and society.

Manufacturing, in which Japan has held competitive edge in the global market, is expected to grow continuously in Asia. “IT for Advanced Manufacturing” is a field in which traditional manufacturing is integrated with cutting-edge information technology at an advanced level. Products and services associated with this field include home electronics, automobiles, mobile terminals, system architecture, and so on. TUAT has been aware of the importance of this field from early on and deemed it urgent to undertake human resource development in Asia. The University has commenced the Asia Engineering School to offer courses for the “Education Program of IT Engineers for Advanced Manufacturing” from the 2008 academic year.

Operated as part of the “Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan” jointly sponsored by the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI) and the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) of Japan, the program is dedicated to facilitating mutual understanding and strengthening economic partnership among Asian countries. Industry and the University make collaborative efforts to provide brilliant students from Asia with opportunities to study in Japan and then to work in Japan as a member of Japanese corporations. Selected students are expected to become leading figures in the global society, playing the role of a bridge between Japan and their home countries in Asia.

More specifically, the program is intended to train students to acquire the expertise required for work in the IT for Advanced Manufacturing field, and to gain Japanese language ability and capability of adapting themselves to the Japanese business culture, so as to help find a job at Japanese corporations. The program is open to capable and motivated graduate students of Asian countries, and it aims at allowing those who have completed the program to further enhance their career at Japanese corporations, playing active roles in the Asian and global society, and to contribute to the world economy as well as to the development of global human resources like themselves.

TUAT has accepted a great number of international students from Asia and other regions up to date, and they are now actively playing important roles in Japan and abroad. The University has made substantial achievements in education and research in such fields as information technology, mechanical system engineering, electrical and electronic engineering, and biotechnology. Moreover, TUAT leads industry-academia-government collaboration in Japan (for example, TUAT holds first place in Japan with respect to the number of joint research projects/budgets per faculty). The University also has a long history of offering excellent Japanese language education while establishing international exchange programs with sister universities abroad and long-term industrial internship programs with industry. TUAT provides an ideal environment for the pursuit of education and research and for the students' personal as well as academic development.

Students joining the program will be recommended to MEXT by the University as Japanese government scholarship students, and scholarship will be awarded to those successfully passing the MEXT screening.

## **2. Qualifications and Conditions**

### **2.1 Major Field of Study**

Information technology or other engineering fields related to the application of IT offered by the Departments (Department of Computer and Information Sciences as the principal department and the following IT-related departments: Department of Mechanical Systems Engineering; Department of Electrical and Electronic Engineering; Department of Biotechnology and Life Science; and Department of Applied Chemistry) at the Graduate School of Engineering at TUAT

### **2.2 Number of Applicants to be Admitted**

Eight (8) applicants will be admitted.

### **2.3 Academic Supervisor**

Refer to the TUAT Researcher Database linked from the program Website <URL: <http://www.tuat.ac.jp/~asiaprog/>> to search for your desired academic supervisor. Specify the name of the two academic supervisors (indicate your first and second choice) on your application form. You need not to contact him or her in advance before making application. Applicants who have passed the initial screening (screening by application materials) must get in direct contact with their desired supervisor for consultation upon acceptance. Successful applicants of the initial screening will be notified personally on how to contact their academic supervisor.

### **2.4 Academic Background**

Applicants must be graduates from a four-year college/university of an Asian country with

outstanding academic records. Those who expect to graduate and have a bachelor's degree or its equivalent conferred by September 30, 2010, may also apply.

The Japanese government has established a grade point average (GPA) system. Applicants are required to have achieved a GPA of 2.0 or higher in the past two years and 2.5 or higher in the most recent one year. Refer to the table and the formula on the next page to calculate your GPA.

Grades and Grade Point Values per Scale

Scale	Grade				
4-grade scale		Excellent	Good	Average	Fail
4-grade scale		A	B	C	F
4-grade scale		80-100%	70-79%	60-69%	0-59%
5-grade scale	S	A	B	C	F
5-grade scale	A	B	C	D	F
5-grade scale	90-100%	80-89%	70-79%	60-69%	0-59%
<b>Point value</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>0</b>

Calculating Formula:

$$\text{Total Grade Points: } (a) \times 3 + (b) \times 2 + (c) \times 1 + (d) \times 0 *$$

---


$$\text{Total Number of Credits: } (a) + (b) + (c) + (d)$$

(a) : Number of credits of point value 3    (b) : Number of credits of point value 2  
 (c) : Number of credits of point value 1    (d) : Number of credits of point value 0

\* To get grade points, multiply each point value by its number of credits.

## 2.5 IT Skill Examinations

Applicants are advised to take the information technology engineers examinations [\*1] conducted in their home countries before coming to Japan.

[\*1] Information technology engineers examinations

Those examinations are based on the skill standards for IT engineers. The Information-Technology Promotion Agency (IPA: <http://www.ipa.go.jp/>) takes initiatives in promoting mutual authentication of the IT examinations conducted in Japan and in other Asian nations and regions. IPA has signed a memorandum of understanding with those Asian partners.

## 2.6 Japanese Language Proficiency

Applicants are recommended to have attained at least the Japanese Language Proficiency Test Level 3[\*1] by the time of application and preferably Level 2[\*2] before arrival in Japan.

[\*1] Japanese Language Proficiency Level 3

The examinee has mastered grammar to a limited level, knows around 300 kanji and 1,500 words, and has the ability to take part in everyday conversation and read and write simple sentences. This level is normally reached after studying Japanese for around 300 hours, which is equivalent to completing an elementary course.

[\*2] Japanese Language Proficiency Level 2

The examinee has mastered grammar to a relatively high level, knows around 1,000 kanji and

6,000 words, and has the ability to converse, read, and write about matters of a general nature. This level is normally reached after studying Japanese for around 600 hours, which is equivalent to completing an intermediate course.

(See <<http://www.jees.or.jp/jlpt/>>.)

## 2.7 Nationality/Age

Applicants must have the nationality of a country which has diplomatic relations with the Japanese government as of October 1, 2009. Applicants must be persons arriving in Japan from countries overseas to enroll in this program who were born on or after April 2, 1975. Those who have Japanese citizenship as of the time of application are not eligible for application.

## 2.8 Health

Applicants must be physically and mentally healthy.

## 2.9 Arrival in Japan

Applicants are expected to come to Japan on a date specified by TUAT between October 1 and October 7, 2010.

## 2.10 Other Notes

- Incumbent military personnel or persons with civilian military personnel status are not eligible for application.
- If you fail to arrive in Japan by the specified date, your acceptance will be canceled.
- Those who have previously studied as Japanese government scholarship students are eligible to apply after a period of at least three years of educational or research experience in their home countries after having returned from Japan.
- A grantee of a scholarship from an organization other than the Japanese government will not be nominated as a Japanese government scholarship student.
- Those who are applying for a Japanese government exchange student scholarship as recommended by a Japanese embassy or for any other scholarship program operated by another Japanese university are not eligible for application.
- If a prospective graduate fails to graduate by September 2010, his or her acceptance will be canceled.

## 3. Screening Schedule

Date	Description
Thursday, October 1, 2009 to Thursday, November 19, 2009	Application period (Submissions by postal mail only)
After Thursday, December 10, 2009	Announcement and notification of the initial screening (screening by application materials) results
Mid December 2009 to Early January 2010	Consultation with desired academic supervisor about acceptance *Successful applicants of the initial screening will be notified personally on how to contact their academic supervisor.
Early January to Late January 2010 (TBA)	Second screening conducted (screening by interview) *Detailed information including screening venue will be provided to successful applicants of the initial screening.

Late January 2010	Announcement and notification of the second screening (screening by interview) results
Early July 2010 (TBA)	Scholarship recommendation to MEXT by TUAT
July to September 2010	Preparatory on-site Japanese training courses provided in the applicants' home countries before arrival
Late July 2010 (TBA)	Announcement and notification of the screening result for the MEXT scholarship application
October 2010	Arrival in Japan; Enrollment in the Asia Engineering School; Japanese language training course at TUAT begins.
January 2011 (TBA)	Entrance examination for the master's course at the Graduate School of Engineering at TUAT *All the Japanese language training course students must take and pass this examination.
February 2011 (TBA)	Announcement and notification of the result of the entrance examination
March 2011	Completion of the Japanese language training course
April 2011	Enrollment in the master's course at the Graduate School of Engineering; Program for the 2011 academic year begins.

**Information Sessions on the Program** prior to applications will be held in the fall (from August to November) of 2009 in several countries in Asia. For further information on the sessions, please visit our Website at: <URL: <http://www.tuat.ac.jp/~asiaprogram/>>.

### **3.1 Initial Screening (Screening by Application Materials)**

#### **3.1.1 Application Period**

Applications must be received between Thursday, October 1, 2009 and 17:00, Thursday, November 19, 2009 (All dates and times are given in local Japan time and must be strictly observed.)

#### **3.1.2 Documents to be Submitted**

1. Application form for the 2010 Academic Year \* ..... 1 original copy (no photocopies)
2. Field of Study and Study Program \* ..... 1 original copy
3. Either one of the followings:
  - 1) Certificate of enrollment from college/university currently attended; or
  - 2) Certificate of graduation (or expected graduation) or diploma from college/university (undergraduate or graduate) last attended..... 1 original copy (no photocopies)
4. Transcript of academic records from college/university (undergraduate or graduate) last attended covering most recent two years of enrollment ..... 1 original copy (no photocopies)
5. Photograph (4.5 cm x 3.5 cm, taken within last six months, from the waist up, full-faced and uncapped; with name and nationality written on the back; and attached to the application form)..... 1 photo
6. Documentation objectively ascertaining your Japanese language proficiency (Certificate of Japanese Proficiency Test, or other related document) ..... 1 original copy
7. Application materials check sheet \* ..... 1 copy

All the prescribed forms \* (1, 2 and 7 above) can be downloaded from our Website: <URL: <http://www.tuat.ac.jp/~asiaprogram/>>.

Please note the following points:

1. The above documents should be typewritten or printed neatly and legibly either in Japanese or English, using A4-size paper (210 x 297mm). (Those written in other languages should be accompanied with a Japanese or English translation.)
2. All the above documents should be correctly completed and submitted before the deadline. Otherwise, application will not be accepted.
3. For documents 1, 2 and 7 above, use the prescribed forms.
4. All the submitted documents will be retained by TUAT and will not be returned.
5. Document requirements and format are subject to change. Changes will be announced on the Website.

### **3.1.3 Mailing Documents**

Mail your application materials to the address shown below by EMS or other types of traceable international mail. Non-mail deliveries are not accepted.

Attention: Asian Program Admissions

International Center, Tokyo University of Agriculture and Technology – Koganei Campus

2-24-16 Naka-cho, Koganei-shi, Tokyo 184-8588 JAPAN

Tel: +81-42-388-7772

### **3.1.4 Announcement of the Initial Screening Results**

The results of the initial screening (screening by application materials) will be notified to applicants directly on or after Thursday, December 10, 2009.

### **3.2 Second Screening (Screening by Interview)**

The second screening will be conducted for those who have passed the initial screening. This will be an interview session in the applicants' home countries. Details including date and time, venue, etc., will be notified to successful applicants of the initial screening.

Date	Country	City
Early January to Late January 2010	China	Shanghai / Dalian
	Thailand	Bangkok
To be determined on an individual basis	Vietnam	Hanoi
	Countries other than the above	Cities other than the above

### **3.3 Graduate School Entrance Examination**

Successful applicants of the second screening will get admitted to TUAT from October of 2010. They will first enroll in the University as “Japanese language training course students” for six months. It is mandatory for them all to take and pass the entrance examination for the master's course program at the Graduate School of Engineering at TUAT, which will be held in January 2011.

## **4. Program Description**

### **4.1 Features of the Program**

Prior to the start of their education in Japan, TUAT will provide preparatory on-site

Japanese language training for prospective students in their home countries. This training aims at relieving concerns about studying in Japan by improving their Japanese language proficiency through intensive Japanese language courses offered before their arrival in Japan. Further education and training on the Japanese language and culture will be provided to the students upon their enrollment at TUAT. They will spend their first six months at TUAT pursuing Japanese language training course, getting themselves ready for their life on campus from April of next year.

In addition to courses offered as part of the regular curriculum at the Graduate School of Engineering of TUAT, the Asia Engineering School provides special IT lectures that make use of educational materials newly and jointly developed by TUAT, industrial consortium members and companies participating in the project. A variety of Japanese language education programs are also available besides specialized courses. These programs are aimed at allowing students to acquire Japanese language proficiency at least equivalent to the Japanese Language Proficiency Level 1 by the time of the completion of the program.

All students will participate in a long-term internship at Japanese companies during the program to experience and grasp Japanese business culture on a first-hand basis. Students are expected to complete their two-year master's course in spring, the season when Japanese corporations offer greater job opportunities for university graduates than at other times, at the end/beginning of the fiscal year.

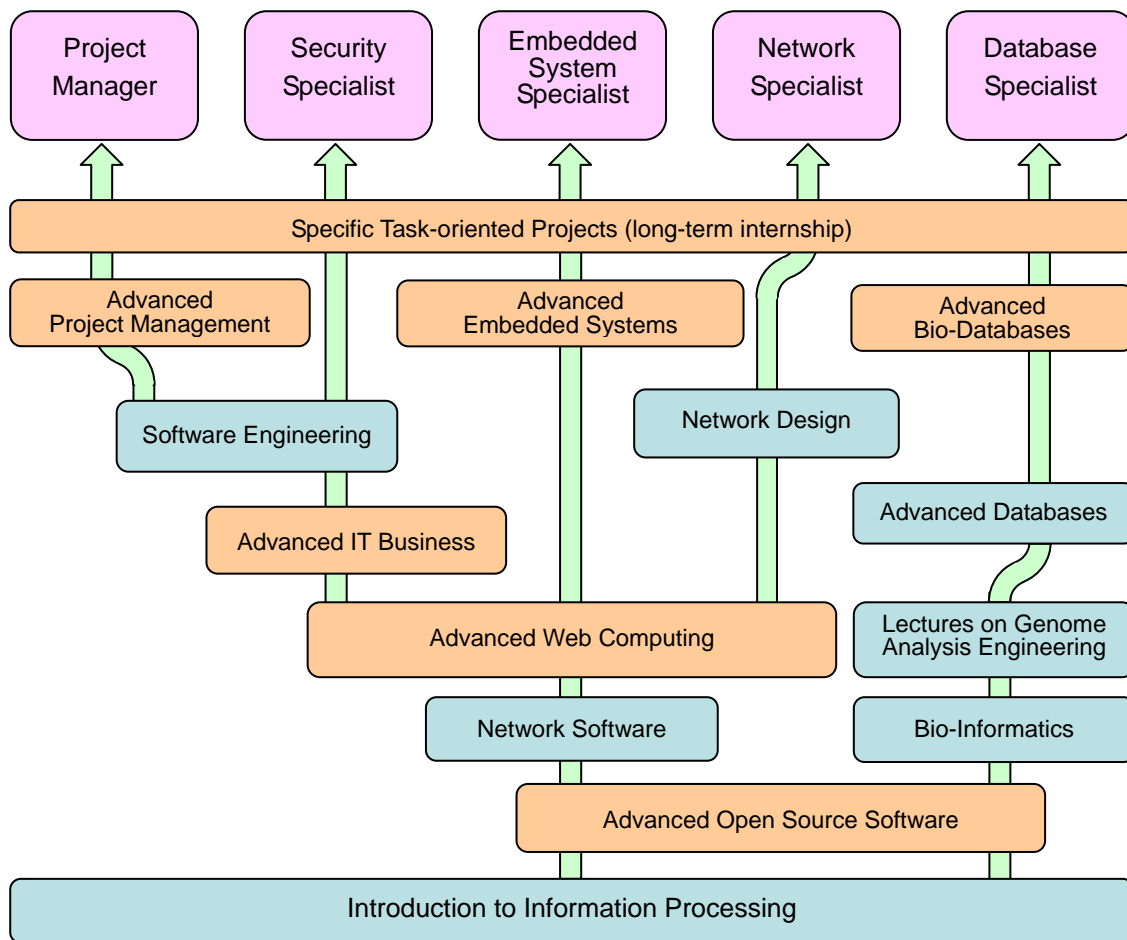
#### 4.2 Curriculum

Specialized education lectures employ materials equivalent and compliant to the skill standards Levels 2 to 4 in software development (ITSS) and embedded software development (ETSS) established by the Information Technology Promotion Agency (IPA). Students are required to take IT engineers exams twice, at the time of enrollment and of completion, to ascertain their IT skills in Japanese.

The Asia Engineering School provides courses including the followings:

Subjects for the 2011 Academic Year	
Introduction to Information Processing	Network Design
Bio-Informatics	Advanced Databases
Lectures on Genome Analysis Engineering	Software Engineering
Network Software	Specific Task-oriented Projects
Special Subjects for the 2011 Academic Year	
Advanced Project Management	Advanced Embedded Systems
Advanced Web Computing	Advanced Bio-Databases
Advanced Open Source Software	Advanced IT Business

## Principal Subjects of the Asia Engineering School: Course Tree



### 4.3 Japanese Language Education Programs

#### 4.3.1 Preparatory Japanese Language Education in the Applicants' Home Countries

A preparatory on-site Japanese language education will be offered to successful applicants after the second screening in the applicants' home countries during summer, prior to their arrival in Japan. Through intensive language training, the applicants with basic Japanese language knowledge at the time of application will be able to enhance their language proficiency to an adequate level before their coming to Japan in October 2010. Successful applicants will be notified of how and when the training will be implemented.

#### 4.3.2 Preparatory Japanese Language Training in Japan

During the first six months of their enrollment at TUAT from October 2010 to March 2011, students will participate in the Japanese intensive courses as Japanese language training course students. By acquiring academic Japanese language needed for their educational and research activities as well as knowledge on Japanese culture and customs, they aim to reach a higher proficiency level of the Japanese language prior to entering TUAT's Graduate School of Engineering in April 2011.

### **4.3.3 Business Japanese Training**

After enrollment in the Graduate School, students will learn business Japanese that will be essential for them to join Japanese companies after completion of the program. They will also acquire skills necessary in finding employment at Japanese companies while overcoming linguistic disadvantage. Making much use of role-playing exercises, this intensive training course provides students with opportunities to learn practical business Japanese and help them build up their career in Japan.

### **4.3.4 Japanese Business Practice Training**

This course is intended to train students and make them ready for participation in business activities immediately after joining a company. Students will learn Japanese corporate culture, business manners, and words and phrases for business, all of which are necessary for working in a Japanese environment. Advice on job searching is also offered.

## **5. Scholarships and Finances**

### **5.1 Scholarships**

TUAT will recommend students joining the program to MEXT as Japanese government scholarship students.

#### **5.1.1 Scholarship Period**

Two and a half years from October 2010 to March 2013. This period will not be extended for any reason, such as for repeating a year.

#### **5.1.2 Monthly Stipend**

Scholarship students will receive a monthly stipend of ¥155,000 for the first six months of their first year and ¥157,000 for the next six months of their first year and after (amount subject to change). In the event that a scholarship grantee takes a leave of absence or fails to attend classes for a considerable period, his or her scholarship provision will be suspended.

### **5.2 Travel Allowance**

One-way travel to Japan will be provided. Return airfare will not be provided.

### **5.3 Tuition and Fees**

Entrance fee and tuition will be waived for those who are selected as MEXT scholarship students.

### **5.4 Housing**

Accommodation in the International House on TUAT's Koganei Campus will be available during the first year of enrollment. For details about campus life after admission, see the University's Website.

## **6. Other Notes**

- Students are not allowed to take the doctoral course immediately after completing the program.
- You may not apply for any Japanese government scholarship student program operated by another Japanese university.

## **7. Contact Information**

Attention: Asian Program Admissions

International Center, Tokyo University of Agriculture and Technology – Koganei Campus

2-24-16 Naka-cho, Koganei-shi, Tokyo 184-8588 JAPAN

Tel: +81-42-388-7772 (M~F 09:00-17:00, local Japan time)

Fax: +81-42-388-7775

E-mail: [asiaprg1@cc.tuat.ac.jp](mailto:asiaprg1@cc.tuat.ac.jp)

URL: <http://www.tuat.ac.jp/~asiaprogr/>